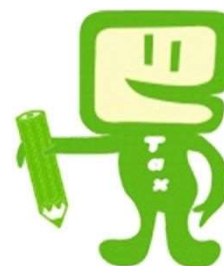


令和4年度「税に関する高校生の作文」優秀作品

受賞名	題名	学校名	学年	氏名
新潟県租税教育推進協議会長賞 佳作	税金の「平等」と「公正」	新潟県立長岡高等学校	2	一戸 咲輝
長岡税務署長賞	いってきますと言えること	新潟県立長岡大手高等学校	1	阿部 陽菜多
長岡税務署長賞	公共サービスと税金	新潟県立長岡大手高等学校	1	西村 理乃
長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀	日本の税の今と将来の私たち	新潟県立長岡高等学校	2	豊田 智奈美
長岡税務署管内税務団体連絡協議会 会長賞 優秀	日本は豊かな国であるか	新潟県立長岡高等学校	2	土田 康生



令和4年度 中学生の「税についての作文」優秀作品

受賞名	題名	学校名	学年	氏名
新潟県知事賞	未来のために	長岡市立北中学校	3	大関 いち夏
新潟県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞	ありがとうの輪・税金	長岡市立寺泊中学校	1	本合 凜空
新潟県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞	教育を支える税金	長岡市立栖吉中学校	3	礒谷 祐里
新潟県納税貯蓄組合総連合会 優秀賞	税と生活とのバランス	長岡市立越路中学校	3	関 亜佑里
長岡税務署長賞	税金によって変わる私たちの生活	長岡市立栖吉中学校	3	相澤 真綾
長岡税務署長賞	みんなを助ける税金	長岡市立岡南中学校	3	青柳 百花
新潟県長岡地域振興局長賞	「税と私たちの生活」	新潟大学附属長岡中学校	3	長谷川 明音
長岡市長賞	祖父の死から学んだこと	長岡市立東北中学校	3	間野 佐和子
出雲崎町長賞	税と向き合うこと	出雲崎町立出雲崎中学校	3	松永 紗知
長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀	税金の大切さ	長岡市立越路中学校	3	藤井 小花
公益社団法人長岡法人会会長賞	税金と私たちの生活	新潟大学附属長岡中学校	3	山谷 真里奈
関東信越税理士会長岡支部長賞	学習環境と税	新潟大学附属長岡中学校	3	井上 歩輝
長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 最優秀	「社会の会費」でみんなの暮らしを豊かに	長岡市立大島中学校	3	市村 百萌佳
長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀	「税金」がつくる当たり前	長岡市立東北中学校	3	上村 桃子
長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀	「税金パワー」をありがとう	長岡市立寺泊中学校	1	五十嵐 千聖

新潟県知事賞

未来のために

長岡市立北中学校

三年 大関 いち夏

小学校六年生の時、突然私たちを襲った一斉休校。当たり前に行っていた全校での卒業式ができなかった。中学校入学後もしばらく分散登校が続き、友達と一緒に教室を移動したり、喋ったりができなかった。今ではできているものの当時はすごく制限されていた。

そんな私たちの生活を変えた新型コロナウイルス。今ではその対策として、ワクチンが無償で打てることは当たり前のようになっている。私はふと思った。「ワクチンは無償で手に入るはずがないのに、なぜ無償で打てているのか。」気になって調べたら、全額国の税金で負担されていることを知った。正直、税金と聞くと、二〇一九年にすべてではないが一〇％に引き上げられ、何かものを買う時には必ず消費税がかかるからマイナスのイメージが強かった。無駄にお金を払っている気がして、なければいいのになんと思っただこともあった。しかし、ワクチンが無償で打っている今、そんなことを考えることは無くなった。一つものを買うのにかかる消費税は少しだけど、それでも毎日誰かが買い物をしていて、その小

さな積み重ねによって、私たちは毎日快適に過ごしている。例えば、コロナ禍が始まる前からでも当たり前にあった救急車や警察を呼ぶこと、小中学校の教科書の無償化など様々なことに税金が使われている。ワクチンもその一つといえるだろう。実際私もワクチンを打つことで、コロナへの恐怖感が和らいだり、マスクをつけてのある程度の外出はできるようになった。さらに、税金でまかなわれているおかげで、みんなが同じようにワクチンを打てる環境にある。「みんな平等」そういう点においても、税金というのは大切なんだと気づかされた。もし税金を納めていなかったら、この当たり前がなくなってしまう。この突如現れた新型コロナウイルスにも対応できなかっただろう。誰も予想していなかったこと、このコロナ禍には膨大なお金がかかっているにも関わらず、布マスクの配付や給付金など、国の様々な対応によって私たちは経済的に困ることなく、生活ができています。これも、税金のおかげだ。

私たち中学生には、税金といっても消費税を払うことくらいしか実感がないのかもしれない。しかし、その税金のおかげでこの世の中が少しでも良くなる、困った時にすぐに救急車や警察が呼べる、薬もお金がかからないなど、身近なことに税金は使われている。だから、誰かのためになると考えるだけで、税金に対する気持ちのあり方も変わっていくと思う。私にできることはとても限られているが、その中で自分のできることを精一杯やって、少しでも誰かを救いたい。そして、過ごしやすい未来のために今、納税という義務を果たしていく。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

ありがとうの輪・税金

長岡市立寺泊中学校

一年 本合 凜空

平成二十一年九月十四日、ぼくは極低出生体重児として生まれてきました。生まれるまでも、そして生まれてからも税金に助けてもらいました。ぼくがまだ母のおなかの中にいるとき、救急車という目に見える形で税金のお世話になりました。生まれる予定より四ヶ月も早く、ぼくを守っていた羊水が少しずつ流れ出ていって、命に危険があったから、周産期母子医療センターのある病院へ搬送されました。その後、ぼくが生まれるまで三週間、一日八万円もするMFIICUという特別な病室で、二十四時間いつも見守ってもらい、ぼくは無事に生まれることが出来ました。生まれてからも、NICUやGCUという特別な場所で、呼吸器や色々な機械をつけて、二十四時間見守ってもらい、三ヶ月入院しました。小さく生まれたから、感染症にかかるかと重症化しやすいからと、シナジスという一本十六万円もする注射を六ヶ月間、毎日接種したそうです。もちろん記憶にはありません。

このことを知ったのは、小学二年生の時の「じぶんものがたり」という自分の成長を調べる授業の家族インタビューの時でした。

ぼくは、たくさんの人に支えられて生まれてきたことを知りました。そして、お金のことが気になり聞いてみた時、お金はあまりからなかったと言われて、「良かった」と思ったのを何となく覚えていました。そして、小学六年生の社会の授業の時、医療にも税金が使われていることを知り、税金で助けてもらった部分もあって、あまりお金がかからなかったのだと理解しました。救急車や救急隊の人の給料、NICUやGCUの入院費、シナジスの助成金など、全て税金です。税金がなかったら、たくさんのお金がかかって、大変です。

ぼくがこうして毎日元気に過ごしているのも十三年前、病院の先生、看護師さんたちが見守ってくれたからです。あと、税金を納めてくれている人達がいて、その税金が医療という分野にも使われているからです。会ったこともないけど、たくさんの人たちが税金を納めてくれているおかげで、目には見えない支えあいの気持ちを受け取ることが出来たことに「ありがとう」という感謝の気持ちでいっぱいです。

今、ぼくの納める税金は、おこづかいで買ったものの消費税だけです。税抜額と税込額を見ると、安い税抜額がいいと思ってしまいうけど、税金は何かの役に立っているんで、これからも気持ちよく払いたいです。そして、将来働いたら、きちんと所得税や住民税などの税金も納めて、誰かの支えの一部に役立つといいなと思います。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

教育を支える税金

長岡市立栖吉中学校

三年 礪谷 祐里

私達は普段、当たり前のように学校に通い、日々学習をしている。こうして私達が当たり前のように学習ができるのは、税金が教育を支えてくれているからである。

私の通う中学校では、「教育のデジタル化」がかなり進んでいる。私が中学一年生のとき、校舎にWiFi設備が完備され、一人一台タブレットが配られた。それ以来、生徒がスライドを作って授業で発表したり、生徒会がタブレットでアンケートをとったりなど様々な場面で大いに役立てられている。また、学習アプリで復習ができたり、体育の授業で動画を撮影し、自分の動きを確認できたり、以前よりさらに良い学習環境になったと改めて感じる。当時の私は、

「一人一台なんてすごいな。」

というくらいにしか思っていなかったが、今考えてみるとこのようなデジタル化が実現したのは、たくさんの人が一生懸命働いて「納税」という義務を果たしてくれていたからなのだと分かる。タブレット以外にもエアコンなどの校舎の新設備の設置や教科書、ファイル、机など学習に不可欠な様々なものが税金によって

まかなわれ、私達の学校生活を支えている。このようなことから考えてみても、教育費は中学生にとって最も身近な税といえるだろう。

令和元年度、公立学校の中学生一人あたりにかかった教育費は年間約一〇九一〇〇〇円で、一日あたり約五四五〇円かかっている計算になるという。私は、自分が一年間学習をするのにこれだけの税金があてられているということを初めて知り、とても驚いた。もし、税金が無かったら教育費が自己負担になり、教育を受けられず、社会に出るために必要な知識が身につけられなかったかもしれない。そして、深刻な教育格差が生まれてしまったいたかもしれない。そう考えると、以前よりも快適な空間で当たり前のように学習できていることのありがたみやそれを支えるたくさんの方の納税者がいること、その人達への感謝を忘れてはならないと強く思う。

私達のために使われている教育費という税金は、多くの人の努力と私達の未来への期待がこもった大切なお金だ。また、多くの人が期待を込めて「納税」という義務を果たしてくれているように、私達にもその期待に応え、よりよい未来をつくる義務がある。私達生徒は、そんな大切な税金や学ぶチャンスを無駄にしないためにも、日々学習に励み、これからの社会を支えられる大人になるべきだと思う。

私は、これから当たり前に教育をうけられることへの感謝を忘れずにもっと学習に励み、期待に応えられるような大人になりたい。そして、今度は自分が先の未来をつくる子供達を税金を通して支えていきたい。

新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

税と生活とのバランス

長岡市立越路中学校

三年 関 亜佑里

税と一言で表しても、沢山の種類があります。消費税、所得税、法人税、他にも様々な税があります。私たち中学生にとって一番身近な税は消費税でしょう。消費税は支出に対し決められた比率分払うというしくみなので、どんな人にも公平な税なのかもしれません。しかし私たちには収入はなく、少ないおこづかいから税金も出ているということに少なからずモヤとした気持ちになります。しかも二〇一九年には消費税は八パーセントから、十パーセントになっています。そもそもなぜ消費税は引き上げられたのか。私は理由を知りません。私は疑問に思うようになりました。

理由としては、主に年金や社会保障の財源確保のためだそうです。社会保障は社会全体で助け合おうとする仕組みですがその費用は基本的に保険料でまかなわれています。しかしそれでは働く人に負担が集中してしまいます。少子高齢化に伴い、社会保障費が増え続ける中、お金は足りず、税金や国債に頼る部分

が増えていました。安定的な財源を確保するために消費税は引き上げられたそうです。なるほど、と思いました。「税が引き上げられるのは使い道に問題があるのかな」と思っていました。時代の変化に合わせて税も変化していくとわかりました。公平性と国の安定のためにも引き上げは必要だったのだと思いました。

しかし調べていくうちにデメリットもあるとわかりました。消費税が上がれば今まで買えていた金額より高くなり、買わなくなる人が増えます。物が売れないと会社は儲からず、社員の給料は下がります。そして、所得税や法人税は、会社が儲かり、社員の給料が上がるなどして増えるものです。消費税が増えることで他の税の収入が減り、国の収入が減ってしまう可能性があります。ということです。たしかに、私も物を買うのを控えることがあります。私一人が躊躇ったところで、という感じかもしれませんが、買うことを控えることによる影響なんて考えたことはありませんでした。

国のためにも消費税を増やすのも納得できませんし、物が高くなり、結果他の税金の収入が減ってしまうのも理解できません。私は消費税が増えてよかったのかどうかはわかりません。ただ、バランスが大事だと思いました。まだまだ税について知らないことばかりなので、もっと税のことを知り、自分なりの意見がもてるようになろうと思います。そして、国には、私たちのこれからの生活がよりよいものになるような税のしくみ、社会のしくみを築いてくれることを期待しています。

長岡税務署長賞

税金によって変わる私達の生活

長岡市立栖吉中学校

三年 相澤 真綾

私は、今まで税金についてあまり良いイメージを持っていなかった。納めた税金が様々なことに使われていることは分かっているが、納税はどうしても負担に感じてしまう。

ところが、税金が私たちの生活をよりよくするものだと思いついたきっかけがあった。約三年前、私の家の近くに遊歩道ができたことだ。それまでは雑草が沢山生えていたし、歩きにくい道だったため、人通りもあまり多くなかった。しかしこの遊歩道ができから、人通りが多くなり、近所の方々との関わりが増えた。さらに、木が植えられたため見栄えもよくなり、街灯がつけられとても安全な場に変化した。また、コロナ禍にはこの遊歩道を散歩やランニングなどに使用する人を多く見かけた。このように沢山の人の生活を豊かにする遊歩道は税金によって作られていることを知った。

また、日本の医療制度も税金によって支えられている。先日、約四年間アメリカに住んでいた近所の方が帰国した。アメリカで

は、五歳の子がレントゲンを撮っただけで数万円かかったと言っていた。日本で五歳の子がレントゲンを撮ってもアメリカほど高額にならない。それは、日本では全ての国民が何らかの公的医療保険に加入する「国民皆保険制度」がとられており、医療費の一部が税金で賄われているからだ。一方、アメリカには国民皆保険が存在しないため、高額な医療費を払わなければならない。

この二つの例から、私は税金とは国民に負担を強いるだけのものではなく、国民の生活をよりよくするものであるということに気づいた。もし、納税制度が無かったら、国民にとって過ごしやすい環境は整えられない。医療費は全て自己負担しなければならず、救急車やごみ収集車などが有料になってしまう。つまり今無料で受けられる公共サービスの費用を全て自分で負担しなければならなくなるということだ。だから税金は全ての国民にとって必要不可欠なものだ。

最初に述べたように、私は今まで税金に対してメリットはないように感じていたが、周囲を見回すと、本当に沢山のことに税金が使われていて、私自身の生活も支えられていることが分かった。この先大人になるにつれ、私に関わる税金は当然今よりも多くなり負担に感じてしまうことがあるかもしれない。でも、それと同時に税金に支えられていることを感じる瞬間が沢山あると思う。だからこそ税金について理解を深めて、「納税」という形で社会に貢献していきたい。

長岡税務署長賞

みんなを助ける税金

長岡市立岡南中学校

三年 青柳 百花

私は十四年間生きてきた中で、たくさん税金のお世話になってきました。私は小学生の頃、あまり体が丈夫ではなくよく病院に行っていました。が、どんな検査をしてもお会計のときに払うお金はいつも同じだったので不思議に思っていました。ですが、この税の作文を書くにあたって税金の使い道について調べたところ、医療費にも税金が使われていることが分かりました。

例えば、健康診断や新型コロナウイルスのワクチン接種、介護サービスなど、さまざまな場面で税金が活躍しています。特に、最近さかんに行われているワクチン接種は、もし全額自己負担だった場合、金額が高いという理由で接種しない人もいて、現在のようにほとんどの人が二回以上接種しているという状況ではなかったと思います。なので、無料でワクチン接種をすることができるのは、とても幸せなことなんだと改めて実感しました。

初めの方に書いたとおり、私はよく医療機関を受診していました。なぜ毎回同じ金額なのかと調べていたときに、子供の医療費の助成について私が住んでいる長岡市のホームページに書か

れていたので見えました。すると、子供は産まれてから高校を卒業するまでの間、通院は一回五三〇円、入院は一日一二〇〇円の支払で済むといった内容のことが書かれていました。このような助成がないと多額の医療費がかかり、家計に大きく負担がかかってしまうため、体調が悪くても病院に行けないという子供がでてくるかもしれません。なので、子供の医療費の助成にも使われている税金は、人々を助けてくれる救世主のようなありがたい存在だなと思いました。

これまで、国の税金のうち、医療に関係のある税金について書いてきましたが、そのほかにも教育や道路などの整備、さらに外国の支援などにも税金が使われています。国民の生活を支えるための税金だと思っていました。が、日本だけでなく世界中で役に立っていることを知り、とても驚きました。

このように、私たちは国からたくさんのサポートを受けられています。が、それができているのは懸命に働き、所得税を納めている大人の方たちや、消費税や酒税など、さまざまな方法で税金を納めている国民全員のおかげです。なのでこれからは当たり前のように学校で勉強したり、きれいな環境で過ごせたりしていることに感謝をし、大人になって働くようになったら今までたくさんお世話になってきた分、恩返しをするつもりでしっかりと税金を納め、国に貢献したいです。

新潟県長岡地域振興局長賞

「税と私たちの生活」

新潟大学附属長岡中学校

三年 長谷川 明音

「税」と聞いて、私は消費税や所得税などが思い付いた。消費税は、自分で買い物をする時に納めているが、所得税など大人しか納めないものに関してあまり実感がわかなかった。私たちが納めているものが一体何に使われているかを知ってから、「税」に対する考え方が変わった。

先日、税についての講演をしていただいたときに、もし税金が無かったら社会はどうなるのかというビデオを見た。以前私は、税は国が何かをするものであって、実際に税が無くなってもあまり影響はないと思っていた。ビデオを見て、税は私たちの生活を支えてくれているものだと実感した。

「税」が支えてくれているものの一つ目は環境。普段町でよく見かけるゴミ収集車。ゴミの回収も税が使われている。当たり前のように、ゴミを回収してくれているが、税が無ければ町はゴミだらけで不衛生になってしまう。二つ目は治安・健康。パトロールをして町を守ってくれたり、事件や事故が起きたときにすぐに駆け

付けてくれる警察や消防も税があるから、活動している。私たちがケガなどをして病院に行ったときも、税金により負担がされている。最近では新型コロナウイルスも流行していて、ワクチン接種も促されている。私がワクチンを打ったとき、いつもであれば終わった後に会計をしてから帰ったが、何もすることなく帰った。これも実は税金が使われていた。この他にも、毎年学年が上がると配付されていた教科書や机、イス、黒板、学費にも税が使われている。また、壊れた道路を直したり、信号なども支えられている。新潟県では、公共施設として水族館の「うみがたり」に使われていた。災害が起きて、避難した人々のための食料や水、町の復興などに役立てられている。

「税」はただ追加で払っているお金で、いいことはあまり無いと思っていた。だが、税はなくてはならない存在だと感じた。今、安心・安全に、学校に通い友達と話したりすることは全て「税」のおかげだった。新型コロナウイルスのワクチンや、災害で避難した人々の食料や水を用意することも幅広い年代の人たちの命を救っている。修学旅行で訪れた「うみがたり」も税金が使われていてとても驚いた。

今の生活は誰かが納めてくれた税金で成り立っているのだと実感した。これから、そして未来の人々が安心して生活を送ることができるよう税金を納め、大切さを忘れないようにしたい。

長岡市長賞

祖父の死から学んだこと

長岡市立東北中学校

三年 間野 佐和子

今年の五月、私の父方の祖父が入院先で亡くなった。祖父にとって私は初孫で、とても可愛がってもらっていた。人は必ず死ぬものだが、祖父の死はとても悲しかった。

祖父のお葬式が終わってしばらく経つと、自宅のポストに県や長岡市から父宛の郵便がたくさん届くようになった。その郵便物は父の名前の下に亡くなった祖父の名前がカッコ書きで書いてあったので、なぜ祖父の名前が書いてあるの？と母に聞いてみた。すると、母は「おじいちゃんの医療費や介護保険、土地や建物の税金関係の書類がお父さん宛に届いているんだよ。」と教えてくれた。

なぜ医療費や介護と税金が関係してくるのか疑問に思うと同時に、そもそも税金とは何なのだろうかと考え調べてみた。まず、国民が納める税金には私たちに身近な消費税のほかにも父母のように働いている人が納める所得税、酒・タバコや土地・建物にかかる税金など、いろいろな税金があることを知った。そして、国民が納めたそれらの税金は国や都道府県、市町村で私たちが健康で安全安心な生活を送るために、様々な公共サービス

や公共施設を提供するための費用として使われていることが分かった。

さらに税金の具体的な使い道を調べてみると、祖父が生前に利用していた医療や介護サービスへの補助や年金だけでなく、私たちが毎日通う学校にかかる費用や警察・消防署・水道・ゴミの収集などの日々の生活に欠かせない住民サービスにも使われているとのことだった。そのほかにも、住んでいる市町村によって多少の違いはあるようだが、妊娠しているときの検診費用やこどもの医療費補助・予防接種、中高年への生涯学習支援、火葬場の運営など多種多様な内容に税金が使われていることが分かった。これは人が生まれる前から亡くなったあとまで、生涯にわたって税金が使われているサービスを何らかの形で受けているということだ。

今までは買い物をしたときの消費税くらいしか身近に感じていなかった税金がこれほどまでに私自身を含め、私たちの一生に密接に関わっていて、生活していくうえで必要不可欠なサービスに姿を変えていることを知って驚いた。税金というと「取られる」というマイナスなイメージが強かったが、税金を納めることは私たちが日々安心して暮らしていくうえでとても重要であることが分かった。

今の私は大人が納めてくれている税によって支えられる側にいるが、社会人になったらしっかりと税金を納め、安心して暮らせるよりよい社会に貢献していきたいと思う。

長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

税金の大切さ

長岡市立越路中学校

三年 藤井 小花

私は、今まで税金は無いほうが生活が楽になると思い込んでいました。ですが、税金について学び、考え方が大きく変わりました。

小・中学生は義務教育だから授業料はかからないと思っていましたが、中学生で一〇五万円もかかっていたり、教科書代もかかっていたりすることを知りおどろきました。私達の将来のために税金が使われているのだと思い、税金のありがたさを感じました。近年日本はどんどん少子高齢化が進んでいて、社会保障の負担が大きくなってきていますが、税金でその負担を支えている面もあるということが分かり、これからの生活を安定させていくためには税金が必要なんだと思いました。

税の仕組みには、国税と地方税という二種類の税があります。どちらも私たちの生活に必要なものです。国や公共団体では、私たちが健康で文化的な生活を送るため、いろいろな仕事を行っています。個人ではできない仕事のため、多くの費用が必要に

なります。それを税金が負担しているのです。個人ではなく、みんなが幸せになる方法として税金が使われているんだなと思いました。

新潟では雪が多く、登下校が非常に大変です。私は徒歩で登下校しているので、雪が積もっていると長靴に雪が入ってきてしまつて困ります。ですが、朝早くから地域のために除雪してくれる人がいるので、とても助かっています。その除雪にも税金が使われていると知り、税金の良いところがどんどんでてくるようになりました。私たちが除雪をしたり道路や橋を修理したりするくらい大きな費用をだすことができない分、税金が賄ってくれているのです。

他にも医療介護に税金が使われています。健康診断や予防接種、高齢者が安心して豊かに暮らすことができるためのサービスの費用を税金が負担しています。私たちが健康を保っている理由の一つに入っていると思いました。

消費税が10%になり、高いと感じていましたが、少子高齢化の問題でもある社会保障の負担を軽減し、より充実した暮らしを実現させるためだということが分かり、納得しました。

私みたいに、税金は必要ないのではないかと、税金があることで国民の負担が増えているのではないかと考えている人に、税金のメリットを知ってほしいです。

公益社団法人長岡法人会長賞

税金と私達の生活

新潟大学附属長岡中学校

三年 山谷 真里奈

私の父は小千谷市役所で働いている。だから私達家族は、小千谷市民の税金で生活している。仕事内容はなかなかハードだ。まず、台風や河の洪水の時は何か異常がないか確認する。夜中に電話がかかり、朝まで帰ってこないこともある。大変な仕事だと思うが、父は、これが仕事だから、と言ってお給料をもらっている。小千谷市民の方々が税金を納めているから私達は暮らせていると実感する。公共サービスは、あたり前をつくるためにあたり前に受けているが、その裏で父のように一生懸命守ってくれる人がいる。そのことを忘れてほしくないし、私も忘れたくないと思う。

私の弟は二度救急車で運ばれている。一度目は一才の頃、階段から落ちて頭から血が出た時だった。その日はおまつりの日で、「時間はかかりますが、行きます。」

と言われたらしい。父も母も本当にほっとした、とよく言っている。救急車の中で泣いて怖がる弟に、大丈夫だよ、と声をかけて無事に病院へ着くことができた。処置は傷口をホチキスで止めて

あっけなく終わったそうだった。後日その隊員さんが同じ町内だと分かった。

「お世話になりました。わざわざ来ていただいてすみません。」

と言うと、

「それなら良かった。不安だったと思うから呼んでもらっていいですよ。」

と言われ、とても安心したそうだった。二度目の時もけいれんした弟を乗せてもらった。

家族が税金に関わっているので、私も税金によって作られるあたり前に感謝したい。また、そのために働く方々を尊敬している。

私は小学一年生の時に担任の先生から、

「教科書は、国のお金で買ってもらっているから、大切に使いましょう。たくさん学びましょう。」

と言われたことを時々思い出す。私の小学校は、設備が整っていてもきれいだっただ。それは全て、地域の人が私達のことを想ってくれたからできたものだ。本当に実感する。

今、地域で過疎化が進んでいる。残された住人だけで地域を守ることは難しい。そんな中だから、今よりも一人一人の負担が増えるだろう。それでも、最低限のくらしを守るために、私は働いて税金が納められるようにしたい。今までもこれから、税金によって私達の生活は支えられていくことを忘れずに生きていきたい。

関東信越税理士会長岡支部長賞

学習環境と税

新潟大学附属長岡中学校

三年 井上 歩輝

先日、私は学校で税に関する授業を受けて、私たちの生活は税金によって成り立っているのだということを強く感じた。

自分自身が一番恩恵を受けているのは、義務教育を含む学習環境だ。学校では、机、イス、黒板などの備品や教科書、電気や水道、校舎の維持管理費、職員の人件費など多くの費用に税金が使われている。

インターネットで調べてみると、小学校一年生から中学校三年生までの九年間で一人当たりおよそ八百万円税金が使われると書かれてあった。高校までを考えると一千万円を超える額になるらしい。これを家庭で払うとなるとかなり家計を圧迫するだろう。私はこれだけの金額が税金で賄われていることに驚きを感じた。

また、私は集中して学習するために、図書館をよく利用する。二時間ぐらい学習した後は気分転換に自分が好きな作家の本を読んでリラックスすると、また集中して学習できる。以前は、調べ学習に必要な資料について、「こんなことを調べたいのです」と図書館のカウンターで頼むとすぐに探して、無償で貸

し出してくれた。

所得税、消費税、車の税金など、親は「税金が高い」とよくつぶやいているが、やはり、子ども一人にかかる税金を考えただけでも、それぐらいは納めなければ成り立たないだろうと思う。私たちの親の世代が、私たちの将来に期待を込めて、義務教育期間を支えてくれているのである。税金は、お金を取られるというイメージしかなかったが、こんなにも感動的事実があると、少し税に親近感がわくものである。

二〇二三年四月には、こども家庭庁という行政機関が設置される予定である。子どもを取り巻く行政事務を集約するというものだ。「いじめ」「児童虐待」「ヤングケアラー」など、これらの社会問題によって、学習環境に恵まれない子ども、あるいは、学習の機会が奪われている子どもがいるのは、本当に悲しいことである。しかし、こども家庭庁の設置によって、未来を担う私たちが、安心・安全に暮らし、平等に教育の機会を与えられるような世の中になっていくと期待される。だからこそ、そこにより多くの税金が使われるべきだと思う。

私たちはもうすぐ十八歳になり、成人として認められる。そして、選挙権が与えられることになる。政治家は、いろいろな公約を掲げているが、私は、子どもの学習環境がより整うような公約を掲げている政治家に一票を投じたいと思う。私がそうであったように、すべての子どもたちにとって、学習環境が保障され、しっかり学べる世の中であってほしいと思う。

税金は、未来のよりよい日本、よりよい世界をつくる、子どもたちへの投資であると、私は考える。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

「税金」がつくる当たり前

長岡市立東北中学校

三年 上村 桃子

「税についての作文かー。」

夏休みの課題で配付された時、何を書いたらいいか、税についてよく分からなかった。自分にはまだ関係が薄く馴染みの無いものだと思っていた。社会の授業で「税のない世界」の動画を見た。私も主人公と同じで「税金なんかなくなればいい」と思っていた。税について調べ、税金は生活の支えになっていると知り、私は間違った考えて無責任だと思った。自分事として捉え自分に出来ること、税金についてもっと知りたいと思った。

新型コロナウイルスの流行により不安な気持ちや制限がある中でも学校で大好きな友達と話したり遊んだりできるから毎日元気に生きていける。私は学校が大好きだ。みんなと一緒に授業を受けたらおいしい給食を食べたり安全に楽しく学校生活が送れているのは、「税金」のおかげだ。

新学年になると一人一冊無償できれいな教科書が配られる。当たり前前の事だと思っている人が多いと思う。しかしアフリカの学校では教科書一冊を三人で使ったり教科書のページが合わないことが少なくないそうだ。お下がりの教科書や下の学年に受け継がれる国も多くある。学びたくても学べない多くの子どもたち

の夢や目標を叶える手助け、将来の架け橋になることを願い、日本では多くのプロジェクトが行われている。だから税金によって無償で一人一冊教科書が貰えることは幸せて感謝の気持ちを持ち大切に使っていきたい。

私は給食が大好きだ。特にカレーが好きだ。ホカホカでモチモチのご飯と具材がゴロゴロ入った温かくて調理員さんの思いがこもったカレーは格別に美味しく毎日食べたい。世界には八億四千万人以上の人が満足に食べられていない。だから給食が毎日食べられることは本当に幸せなことだ。私は中学一年生の時「食品ロス」について作文を書いた。まだ食べられるのに捨てられてしまう食品ロスが日本でも増えている。より多くの人に私の作文を読んで食べ物の大切さを知ってもらいたく一生懸命書いた。私のクラスは給食の残量が多い。給食の残りを見て「もったいない」思ったし、給食にかかるお金は給食費と税による補助で成り立っているから、税金も、「もったいない」と思った。

新潟県では食品ロスを減らすために「エコレシビ」や「もったいないレシビ」がホームページに公開されている。食品ロスを少しでも減らすために私も好き嫌いせず、食べ物を大切においしく残さずに感謝して食べたい。

私たちの当たり前前の日常は「税金」によって支えられている。税金の大切さ、学校に通えること、おいしい給食が食べられることなどの幸せさや感謝の気持ちを忘れずに生活したい。大人になったら、未来ある子どもたちが安心して自分らしく生きる社会、笑顔がたくさん生まれる豊かで助け合い、尊重し合える社会を作るために責任を持って納税したい。

長岡地区納税貯蓄組合連合会 会長賞 優秀

『税金パワー』をありがとう

長岡市立寺泊中学校

三年 五十嵐 千聖

普通に登校し、普通に自分の席につき、普通に教科書を開いて学ぶ。昼には、普通に給食を食べ、午後も普通に学び、普通に下校する。それが、私達中学生の『普通』だ。

でも、この普通には、絶対に欠かせないものがある。それは何だろうか。

机、教科書、黒板、給食。そして校舎。それらを用意するには、当然お金がかかる。そのお金を補助しているのが「税金」。そう、この「税金」こそが、私達の普通に欠かせないものだ。

「…この、『税』って何？」

私は、幼いとき、親にそう聞いた覚えがある。

『二〇〇円＋税』

お菓子にも、おもちゃにも、必ず『＋税』。何だこれ、と思って、聞いたのだろう。

そのとき、親がどう教えてくれたかは、はっきり覚えていない。もう、何年も前の話だ。でも、「ここに書いてある値段より、少し多くお金を払う」というようなことを言っていた気がする。幼い私は、不思議だった。

(どうして、お金を余計に払うんだろう。損するだけじゃない

の?)

ハパーセントだとか、十パーセントだとかは分からないけれど、「税金を払うことで損をしている」というのが、税金の第一印象だった。

しかし、その印象は、しだいに変わっていった。小学生の頃からだ。

小学校高学年の頃に、税についてしっかり学んだ。

今使っている机も、今開いている教科書も、今見ている黒板も、これから食べる給食も。全て税金が使われている、とういことを知った。税金で、損なんかしないんだな、ということに気がついた。小学生一人当たりの年間教育費は、約八十八万円、ということも学んだ。私は、とてもおどろいた。そして、今までの学校生活を振り返った。

授業を、しっかり受けていただろうか。校舎を、丁寧に掃除していただろうか。机や教科書に、落書きをしていないだろうか。給食を、残さずしっかり食べていただろうか。

もし、できていなかったら、私のために税金を払ってくれた人が損をしてしまう。

そうならないために、私にしかできないことは、何だろう。

その答えは、単純で、簡単。

普通に登校し、普通に自分の席につき、普通に教科書を開いて学ぶ。昼には、普通に給食を食べ、午後も普通に学び、普通に下校すること。

普通だけど、幸せな毎日を送ること。

日本国民の皆さん。今日の私も、幸せです。『税金パワー』を、ありがとう。

新潟県租税教育推進協議会長 佳作

税金の「平等」と「公正」

新潟県立長岡高等学校

二年 一戸 咲輝

私が税について考えた時、最初に思い浮かんだのは中学校での公民の授業でのことでした。その日の授業は消費税と所得税を例に、その二つの課税方法の特徴を調べ、どちらの方法がより良いものかを考えるものでした。

消費税は物やサービスを買う時に納めている税金で、老若男女関係なく、買い物をする全ての国民に課税されています。一方、所得税は一定額の収入がある人に課せられており、その人の所得によって税率が変わる税です。

ところで、世の中には「平等」と「公正」という言葉があります。その意味の違いをインターネットで調べてみると、「平等」とは「個々の差異に関わらず、全員に同じものを与えること」、「公正」とは「個々の差異に配慮して、均等な機会を与えること」という記述がありました。私はそれを元に、消費税や所得税は「平等」・「公正」なのか、そうでないのかを考えることにしました。

消費税は、国民全員が同じ税率で納めている点では「平等」だと言えるでしょう。しかし、税率が同じで

も、収入のない子供やあっても少ない人と収入が多い人では、感じる負担の大きさが異なります。そのため、消費税は収入が少ない人の方が不利だと感じることもあり、「公正」とは言えません。その点、所得税では収入が多いほど税率が高く、収入が少ないと税率が低かったり課税されなかったりします。そのため、感じる負担の大きさの差は、消費税と比べて小さくなり、そこに関しては「公正」だと言えます。しかし、所得税は収入が増えると納税額が上がるため、「頑張れば頑張るほどに負担が増える」と考えることもできてしまいます。そう考えると所得税の課税の仕方は「平等」ではないと感じる人も出てくるでしょう。

このように考えると、消費税は「平等」に、所得税は「公正」に比較的近いことが言えます。私は、国民全員が納得して納税するには「平等」も「公正」も大事だと思っています。ですが、消費税のような課税方法と所得税のような課税方法を組み合わせたとしても、完全な「平等」と「公正」を実現することは難しいでしょう。しかし、完全な「平等」・「公正」と現実との差は、一人一人の考え方で埋められるのではないかと私は考えます。「自分が納めた税金によって誰かが助かる」と考えることで、その差は許容されるでしょう。それにより、今日のように、税金の活用が円滑にできているのだと思います。これから「誰か他の人や自分自身のため」という気持ちを持って税と関わっていきたいです。

長岡税務署長賞

いつてきますと言えること

新潟県立長岡大手高等学校

一年 阿部 陽菜多

「はあ、学校行きたくないな。」

毎朝嘆く言葉。重い体を起こして学校へ行く準備をします。

「いつてきます。」と元氣のない声で家を出発していきます。これが私の朝です。

人生で初めて重大な選択をし、義務教育が終わった高校一年生の今。授業中、ふと教科書の裏を見ると、中学校まではあったはずの「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」の文章が高校の教科書にはありません。私の今使っている教科書は、親が多額のお金を出し買ってくれました。「大切にしよう。」と思ったと同時に「親がいない子はどうかやって教科書を買っているんだろう?」と思いました。

夏休み、私のおばさん家族が家に帰省しに来ました。わいわい楽しく遊んだ日の夕方、私の妹がおばさんに聞きました。

「ねえねえおばさんって何の仕事してるの?」

するとおばさんは、妹に目線を合わせ、

「お父さん、お母さんがいなくて暮らせない子のお父さん、お母さんの代わりになる仕事だよ。」

そう言いました。この施設の正式名称は「児童養護施設」です。私は教科書のことを思い出しました。もっと児童養護施設について知りたくなり質問をおばさんにしました。

「何歳くらいの子がいるの?」

と。答えは「二歳から二十歳まで。」でした。高校や大学はどうするのか聞くと国から支援金が出ると言い、「あっそうか。」と教科書についての問いの答え合わせができました。

児童養護施設には保護者による教育が困難な子どもたちがいます。勉強がしたくてもできなかった子どもたちもいたと思います。施設では、みんなと同じように勉強をし、遊び暮らし「いつてきます。」「ただいま。」と言うことができません。勉強ができること、帰る場所があることは、決してあたりまえではない事に気づきました。あたりまえにペンがあり、紙、教科書もある。学校へ行って授業が受けれる。学校から帰ってくる場所がある。すごく幸せなことだと感じました。

勉強をしたくてもできない子、帰る場所がない子が日本だけでなく世界にいます。税金は、そんな子どもたちを助けるためにあると思います。みんなと同じように生活、勉強をやる土台がないのは未来への可能性が失われているということです。未来の可能性を作るために税金があるのだと感じました。

私たちは今未来の可能性を作っています。未来への仕事をしています。未来への仕事をして一日を終えたと「ただいま。」と言って帰ることができます。そしてまた「いつてきます。」と言って未来への仕事に行きます。これは、あたりまえではありません。一日の始まりに「いつてきます。」と言えることに感謝をして学校へ行きたいと思います。

「いつてきます。」元氣な声で家を出発します。

長岡税務署長賞

公共サービスと税金

新潟県立長岡大手高等学校

一年 西村 理乃

「車両火災です。」約一分間アナウンスは続いた。夏休が始まって三回目の日曜日、私は夜行バスに乗って家族と県外へ出かけた。二十四時になってバスは消灯し、その後は何事もなく予定通り運行していた。しかしあるとき只事ではないサイレンで目が覚めた。先行車による車両火災の事故だった。幸いたった事故とはならなかったが、およそ一時間運行止めになった。そしてその間、赤い光がバスのカーテンの隙間から漏れ続けた。

一一〇番や一一九番を押すだけで、救急車や消防車やパトカーは駆けつけてくれる。また私たちは呼んだからといって、お金を払う必要はない。それは税金によって賄われているからだ。これらを公共サービスと呼ぶことにする。それではなぜこのような公共サービスに税金が利用されるのだろうか。気になったので調べてみることにした。

日本では公共サービスで利用料金は発生しない。それは個々に利用料金を徴収しようとすると、各人の評価を正確に把握し、その評価に応じた料金を徴収しなければならず、それを消費者からの費用で賄おうとするのは難しく、費用負担から逃れる者も出てくる

かもしれないからだそう。単に「費用が高額すぎるから」「支え合うのが社会だから」とかいう甘い考えだけではないのである。公共サービスは税金で賄われているため、誰でも簡単にSOSを出すことができる。しかし、「簡単に」というのは非常に厄介なもので、例えば救急車をタクシー代わりに使う人もいるらしい。何のための税金なのか、正しい理解と認識が求められる。では、もし仮に全て自己負担だったとしたらどうなるだろうか。救急車は一回でおおよそ四万五千円、消防車は基本料金十万円、十分あたり一万円、人件費、設備などその他諸々の経費が加算されていくと相当な額になる。事故があったら何台も、と考えるだけでも恐ろしい。このように税金はあらゆるところで私たちの生活を支え、まるで血液のように巡っている。

国民の三大義務として「納税の義務」がある。これは国民の義務であり、逃れることができないものとしてあまりよいイメージをもたない。しかし、これは恩恵を受ける権利と言い換えることができるのではないだろうか。

消費税、所得税、法人税、固定資産税、自動車税など日本には約五〇種類もの税金がある。高校生の私が納めることができるのは、微々たる消費税だけだ。何か買うときに消費税を含めて値段を考えなければならぬのは正直煩わしい。けれど煩わしいこの消費税がだれかの、いつか自分の生活を豊かにしていると思えば、税金も悪くないと思えるようになってきた。まるで未来への貯金とでも言える。だからこそ税金は正しい使い方で、正しい徴収でなければならぬ。税金を納めることは私たちの義務である。その税金を有効活用し、国民が幸せに生きることを心から願う。

長岡税務署管内税務団体連絡協議会会長賞 優秀

日本は豊かな国であるか

新潟県立長岡高等学校

二年 土田 康生

『日本は豊かな国であるか』先日、英語の討論の授業にて、このような議題が出されました。「日本は豊かな国である」という立場で討論に参加しましたが、そこに明確な根拠はありませんでした。ただ漠然と日本は豊かであるに違いはないと考えていた私は、私とは対立の立場で討論に参加していた友達の「税金が高く、何か物を買うにもためらいを覚えてしまう。そのような気持ちが出てしまう時点で、私たち国民の心が豊かであるとは言えないのではないか。」という発言を聞き、反論を述べるのができませんでした。

税金は、私たちの身の周りのさまざまな所で発生します。その最たる例が消費税です。消費税とは、ほとんど全ての物やサービスにつき、買ったリ、サービスを受ける時にかかる税金です。普段、私が通学で利用する電車やバスに乗る際に支払うお金も消費税に含まれます。他にも、所得税や住民税、法人税などがあり、全てを納めると大きな金額になります。しかし、世界的に見ると日本の税金は比較的安く、国民の負担は小さくなっています。ただ、日常生活を送っていく中で、税金が高く感じてしまう瞬間がどうしてもあるはずです。では、私たちは税金についてどのように考える必要があるのでしょうか。

私は、税金の利用先を知ることが必要だと考えます。税金を納めるという行為は、一見すると、私たちにメリットがないように思えます。けれども、実際には、年金、介護、医療費、子育てなど国民生活の手助けになることに多く使われています。この事実を正しく理解しているかどうかで、税金に対する考え方や感じ方が変わってくると思います。例えば「消費税税率1%の上下で約二・六兆円の税収が増減する」という事実を聞いて、税金が私たち国民生活のために使われていることを知っていれば、お金を失われてしまうという消失感よりも、さらに生活が豊かになる充実感が得られるはずです。

税金は、国民を欺いたり、騙し取ったりするような意図があつて設けられたものではないと決してありません。そこには、国民が社会の一員として暮らしていくための会費として納められる税金があり、国が国民の生活をより安全に、より豊かに、より幸せにしようと使われる税金があります。税金とは、国と国民との信頼の証でもあるのです。

もしもう一度『日本は豊かな国であるか』と問われたら、私は迷いなく「日本は豊かな国である」と答えます。私の思う「豊かさ」とは、国や街の治安や子育て環境の良さはもちろん、国との信頼の証を携えた国民の心の豊かさも含むと思います。